

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	1	学校名	静岡県立下田高等学校（全）	校長名	山崎 文則
------	---	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	すべてに優先する安心安全な学校づくり	生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。 （情報データ漏洩等トラブル ^{ゼロ} ） （教務課）	成績処理システムの正確にセットアップ及び運用ができた。また、成績処理等を効率的に行うための「te@cher-navi 操作マニュアル」の利用について周知できた。 今年度、情報漏洩トラブルは1件もなかった。引き続き全体へ向けた注意喚起を行いたい。	A	校務系ファイルサーバや共有のGoogleドライブについては、のフォルダ内の整理が不十分な組織もある。情報管理および引継ぎの観点からも、組織ごとのフォルダ内の整理を呼びかける必要がある。
		安全に関する教育（ネットワーク犯罪、薬物、盗難等）の徹底・薬物講座、防犯教室を年1回実施。学校生活アンケートを各学期1回実施。 （生徒課）	薬物講座や防犯教室は実施できた。学校生活アンケートも各学期1回実施した。 盗難防止のため、2学期からロッカーを1人2個使用できるようにして、施錠の徹底を呼び掛けたが、鍵をかけ忘れたときに物が紛失したことがあった。	B	生徒への呼びかけやロッカーの用意等は今後もしていく。 行事や移動教室時の見回りも行っていく。 放課後の見回りは難しいので、荷物の持ち帰りも促す。
		学期ごとの環境整備活動の円滑な実施と、生徒の心身強化のサポートを相談室の活動等を通じて行い、安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。 （保健課）	スクールカウンセラーの利用が増加し、教員からも生徒対応などについて積極的に助言を求める空気が醸成された。 職員研修等により、特別支援に対する教員の意識も高まった。 ・環境整備については清掃、換気等をこまめに行った。廊下の清掃ロッカー等の配置場所について明確な規定を設け、避難経路の安全を確認した。	B	支援が必要な生徒に関する職員間の情報共有と適切な役割分担ができる体制づくり。 熱中症等新たな健康課題への対応。 人数減少による実情に応じた業務軽減と分担。

		<p>防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率70%を目標とする。</p> <p>また、1年生、2年生はふじのくにジュニア防災士知識行動コースを取得する。</p> <p>(総務課)</p>	<p>地域訓練の参加率は全校で61.3%、1・2年生のみの参加率は73.2%であった。ふじのくにジュニア防災士の資格は所得した。</p> <p>静岡県の事業である被災地研修に参加し、成果を校内、地域で発表した。</p>	B	<p>土砂災害単独の避難訓練(机上訓練でも可)を実施する必要がある。今年度発生したカムチャツカ地震に伴う防災食の配布をもとに、非常食配布と補充のマニュアルを作成する必要がある。防災訓練参加の呼びかけを、生徒教員により強く行う必要がある。</p>
イ	グローバルで活躍できる人材の育成	<p>【3年間を見通したキャリア教育の実践】</p> <p>進路シラバス、進路ストーリーを提示し、生徒が3年間を見通した進路学習に取り組めるよう支援をする。</p> <p>(進路課)</p>	<p>進路シラバス、ストーリーの提示、進路のてびきの発行し、生徒に適切な情報提供をおこなった。</p>	B	<p>提示した資料を決められた進路学習以外でも積極的に活用できるよう計画を行う。</p>
		<p>理数科生徒の各種研修や実験教室による、グローバルで活躍するための進路明確化支援。</p> <p>生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上。</p> <p>(理数科)</p>	<p>生徒満足度は各研修の平均で4.3であった。おおむね例年と同様に進めることができ、今年度は県外研修も実施することができた。</p>	A	<p>県外研修は非常に好評であり、次年度以降も実施していきたい。現状の内容に満足せず、より生徒が興味を持つ研修や発表会にしていきたい。</p>
		<p>生徒が海外で研修する機会を3件以上提供する。年度末の、NY研修に向けて10回以上の事前研修を行う。</p> <p>(国際交流委員会)</p>	<p>県教育委員会等が主催するモンゴル国、韓国高校生派遣事業など、さらに賀茂地区市町による台湾青少年交流事業を生徒に紹介し、参加促進を図った。加えて、NY研修を企画・実施し、25名の生徒が参加した。</p>	A	<p>研修後の学びを全校生徒へ還元できるよう、成果共有の方法や校内での展開を検討する。</p> <p>海外研修の紹介・周知については、引き続き継続する。</p> <p>次回の海外研修継続に向けて、学校間交流を続ける。</p>
		<p>主体的な学びに有効なICT機器の整備と、研修等を通してそれを多くの教員が有効に活用できる。(年度に1回はICT活用のための研修を実施。)</p> <p>(教務課)</p>	<p>4月に新着任の教員に対するICT研修及び8月に全教職員に対するICT研修を実施することができた。</p> <p>学校に割り当てられたiPadやChrome Bookについては、利便性が高くかつセキュリティ的にも安全な状況を、昨年度に引き続き維持することができた。</p>	A	<p>ICTリテラシーについては、教員の個人格差が大きく、生徒の1人1台端末の利用率を上げ、ICT教育の推進をはかるには、教科内や学年内などで、相互にICT活用の情報について教え合ったり、学び合ったりする機会を設ける必要がある。</p>

ウ	主体的、能動的に学ぶ力の育成	<p>【社会に貢献できる「将来の生き方」を考える】</p> <p>「夢講座」「トークフォークダンス」など外部人材の協力を得ながら、将来と社会との関わりを考える。また「総探推進室」「地域連携室」と連携を取り、教科横断的な学び、校外での学びを積極的に推奨する。(進路課)</p>	<p>「夢講座」では、福士加代子氏をお招きして生徒の活力を高める講話をいただいた。</p> <p>「トークフォークダンス」では、地域の方の協力を得て実施ができた。</p>	B	校内で実施される、学習、行事の連携、教科横断的な学びについて、引き続き改善を目指す。
		<p>2年生文系特進クラスにおいて、特進クラスの特徴となるプログラムを年3回以上実施する。(2年部)</p>	<p>静岡銀行の金融キャリア教育講座、市議会見学、サイエンスダイアログ、キッズイングリッシュを実施した。</p>	A	生徒満足度は高いものであった。しかし、始動が遅れてしまったため、日程を早い段階で決める必要がある。
		<p>理数探究の充実による自ら考え、実行できる生徒の育成。生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上。(理数科)</p>	<p>生徒の満足度は4.4であった。少ない人数ながら成果発表会に向けて準備を進めることができた。</p>	B	今年度は小ホールでの開催であった。科内で議論をし、予算の面もあるが、継続的する必要がある。
		<p>総合的な探究の時間を通して、探究の知識、技能を身につけるとともに、よりよい自己と社会を実現しようとする態度を養った生徒が8割以上。(総探推進室)</p>	<p>生徒の学校評価アンケート結果は「十分または概ね目標達成できた」が81.42%で目標値を上回った。</p>	B	グループ探究、個人探究を通じて、「学びのタネ」を獲得するとともに他教科の学習意欲向上につなげるために、伴走支援についてさらなる充実を図る。
		<p>生徒の状況を把握し、生徒の成長を褒めるよう心がけた教員70%以上。減点法式から加点方式への転換を進めた教員50%以上。特別活動、部活動の充実を図る。(全職員)</p>	<p>教員アンケートでは、生徒の成長を褒めるよう心掛けた教員の割合は、94.0%であった。また、加点法式への転換を進めた教員の割合は、84.8%であった。</p> <p>部活動では、芸術部、写真部、生活科学部が全国レベルでの活躍をした。</p>	A	生徒への関わり方や、評価の方法が、生徒自らの意欲的な学ぶ力につながるよう、さらなる研修や改善を図る。
		<p>学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推</p>	<p>学校運営や業務の在り方について、必要に応じて改善のために提案・提言しようとしている教職員が85%以</p>	<p>学校運営や業務の在り方について、必要に応じて改善のために提案・提言しようとしている教職員の割合が87.9%であっ</p>	B
エ					

様式第3号

進	上。 (あり方委員会)	た。		余裕と、意見を吸い上げる組織体制を整える。
	学力向上、授業力向上のための提案を1回以上行う。それを目標とした研修会等を1回以上行う。 (教務課)	「学習評価に基づいた授業改善」をテーマに、年間を通じて研修を行った。定期訪問における全体研修では、学習評価の基準(規準)や留意点を再確認することができた。また各教科間で、日々の授業の在り方やテスト作成、評価の仕方について議論を深めることができた。	A	生徒の実態に応じ、力をつける授業の進め方を研究していきたい。クラス減や生徒の総数が減少していることによる生徒の質の変化や、特進クラスの設置などもあるため、今後も引き続き研修が必要である。
	【「下高生3つの力」を身につけ、多様な進路希望に応じた進路実現を目指す】 「高校生のための学びの基礎診断」「希望模試」「講習」を実施し、確かな学力を身につける支援をする。 「下高進路ストーリー」を軸に、生徒が主体的に進路目標を立て行動をする支援をする。 (進路課)	学びの基礎診断、模試の確実な実施を行った。今年度は、2年生2月に共通テスト模試を新たに実施し、学力定着度を測ることができた。進路希望に合った進路指導については、保護者87.6%、生徒90.9%の満足度は得ている。	A	進路指導に対する満足度は、「十分できている」よりも「できている」を選択している層が多いため、進路指導の充実だけでなく、生徒の進路実現に対する主体性を育てる内容の充実を検討したい。
	人権教育全体計画、年間指導計画に従い社会の多様性を理解するこころの豊かな生徒を育てる。コンプライアンス研修を踏まえ、学校内での人権に関わる諸事案の情報を共有し、全職員の人権意識が向上する。校内研修計画に沿い、特別支援教育等についての知識理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応をとるための資質向上がなされる。(教務課)	コンプライアンス研修を通して、教職員の意識高揚を図った。教職員間・生徒に対する適切な対応がとられた。	B	HR活動や授業、部活動において、生徒の多様化に応じた柔軟かつ適切な対応を今後も続けていきたい。

様式第3号

オ	学校魅力 化・活性化 のための開 かれた学校	地域連携を通じて、生徒の未見の可能性を耕し、学びに向かう力の向上を図るとともに、校外での学びを学校内での学びと有機的につなげる。年間10事業以上の実施と毎学期の共有。 (地域連携推進室)	年間で15事業の企画・運営を行った。今年度から賀茂地区4校が連携して「賀茂ジモト大学」を新たに立ち上げた。	A	生徒が積極的に活動に参加できるように広報の方法についてさらに工夫するとともに、ホームページ等を活用し、実績の見える化を図る。
		ホームページや学校案内、Instagramを活用して学校の行事イベント・魅力を発信する。 (広報戦略室)	2月時点で132件の投稿があり、部活動や探究を中心に広報活動を行うことができた。	A	引き続き、ホームページや学校案内、Instagramを活用して学校の魅力を発信する。
		賀茂地区グランドデザインの具現化に向けて、拠点校配信授業の研究を進める。(年度内の進学補講、教養講座、探究学習等での遠隔授業の実践) (「行きたい学校づくり」推進事業)	遠隔による補講等では、夏季補講、秋季補講、冬季補講において計6回試行した。 賀茂4校で分校のプロジェクト発表会を双方向による配信を行った。	A	学校間での連携も高まり、試行を重ねることができた。校内での遠隔授業においても、技術的な面などを研究し、よりよい遠隔授業のための研究を進めることができた。
カ	学校の働き 方改革の推 進	体育的行事、文化的行事の意義を見直し、スリム化を図る。 今日の教育施策や社会環境の変化、生徒や保護者のニーズを踏まえた行事の検討を進める。 (あり方委員会)	年2回(夏・冬)の球技大会を年1回(冬)とした。 次年度に向けて、研修日(5日→3日に減)及びテスト家庭学習日(2日→1日に減)の日数の見直しを行い授業日確保と夏休みを4日増やす計画とした。	A	研修日や家庭学習日のあり方について、次年度に向けて計画したので、実際に実行してその成果や課題を得る。
		共有ファイルを用いて、各担当が業務の反省や改善点等を記録することで、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われる。 (教務課)	次年度への引継ぎが円滑に行えるようにするため、Googleドライブ内の共有ファイルを用いて、各担当が業務の反省や改善点等を記録することができた。	B	引き続き、担当した業務に関して、引継ぎの文書を作ったりブラッシュアップしていくことで、今後の引継ぎ業務が円滑に進むよう努める。
		(学校全体として)組織的な運営や業務遂行ができていると回答する教職員が80%以上。 (あり方委員会)	教職員へのアンケートでの回答は90.9%であった。	A	組織が目的をもって運営を行うことができている。今後は、時間的余裕を捻出し、組織的な取り組みができるようにしていきたい。

様式第3号

		<p>タイムマネジメントを意識して業務を進め、年次休暇及び特別休暇を積極的に取得した教職員 70%以上。研修日に定時退勤ができた教職員 80%以上。 (全職員)</p>	<p>教職員へのアンケートで「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた割合が、タイムマネジメントに関しては 75.8%、定時退勤に関しては 63.6%であった。</p>	B	<p>タイムマネジメントの意識は高まっているものの、定時退勤に関しては、まだ不十分である。業務の平準化も含めるとともに、業務の効率化も意識した取り組みを心がけたい。</p>
		<p>時間外勤務の縮減または業務の効率化や改善を図った教職員 70%以上。 (全職員)</p>	<p>教職員へのアンケートで「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた割合が 90.9%であった。</p>	A	<p>多くの職員が業務改善を心がけ実践できた。しかし、時間外勤務時間が大きく超過する教職員もみられるため、引き続き取り組んでいきたい。</p>
キ	信頼される学校づくりの推進	<p>定期的（月1回）なコンプライアンス研修の確実な実施。 教職員の不祥事発生件数と交通事故発生件数を0件にする。 (管理職)</p>	<p>月例の職員会議では必ずコンプライアンス研修を行うとともに、日ごろから、危機管理を心がけるような呼びかけを欠かさず行った。 交通事故は、自損事故などがあったが、大きなものはなかった。</p>	B	<p>職員の危機管理意識の向上が見られた。引き続き、信頼される学校づくりを目指し、定期的な研修を実施する。 心に余裕を持った業務遂行ができる職場環境を目指し、監督や助言を行う。</p>
		<p>・業務改善提案実践3件以上。内部統制制度 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件。 ・複数年の課題解消1件以上。 (事務室)</p>	<p>・業務改善提案実践 教員の会計事務移行による学校運営の健全化を計画した。 ・内部統制制度 不適正な会計処理0件、会計検査等の指示事項0件であった。 ・複数年の課題解消 施設設備の保全課題有 本校と分校間の業務連携が不十分である。</p>	B	<p>学校運営参画への業務の精選が必要。 法令遵守に対する教職員の研修の充実を図る。 施設の維持管理の徹底を図る。分校との連携強化。</p>